

秋起こしをしましょう！

水稻刈取り前にニカメイチュウによる被害茎を調査した結果、防除要否水準を超える被害が多く見られました。

表1. ニカメイチュウによる被害茎率調査結果(令和4年8月22日~9月30日調査)

地区・集落名	小勢	牧野	北般若	醍醐 (経営体1)	醍醐 (経営体2)
被害茎率平均 (%)	2.1	7.0	7.3	5.4	11.7

※防除要否水準：第2世代末被害茎率 2%以下

秋起こしを確実にを行い、ニカメイチュウの密度を減らしましょう！

冬の湛水が可能な地域では、冬の湛水も行い越冬幼虫を減らしましょう！

秋起こしに冬期湛水を加えることで、越冬幼虫を更に減らすことができます。ニカメイチュウの被害が大きく冬期湛水が可能な地域では、冬期湛水を併せて行いましょう。(湛水の目安：水田の半分が見え隠れする程度、時期：11月下旬~2月末まで)

表2. 秋起こしおよび冬期湛水による越冬幼虫の防除効果
(H27 福井県農業試験場実用化技術手引き参照)

処理区	生存率 ¹⁾ (%)	無処理比
秋起こし+湛水	8.4	12
秋起こし ¹⁾	20.7	31
無処理	67.7	100

1) 処理後の幼虫数/処理前の幼虫数×100